

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

評価を変更した項目（5項目）

資料5

No.	中期計画	R 5 年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)						
2	<p>〔薬学部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能や倫理観を有しつつ、独創性や問題解決能力を身につけるための専門教育を充実させる。(薬科学科) ・ 基礎科学に裏打ちされた最先端の医療知識・技能や倫理観を有しつつ、薬物療法や臨床研究を提案・計画・遂行する能力を身につけるための専門教育を充実させる。(薬科学科) (No.2) 	<p>〔薬学部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より専門性の高い薬科学科独自の教育を実践する。学生の研究へのモチベーションの向上及び卒業研究の質的向上を図るため、2年次に研究室での実験研究を体験するラボ訪問・研究体験を継続実施する。(薬科学科) ・ 改正指定規則に対応した臨床検査技師教育に関する実習の実施体制を整備する。(薬科学科) ・ 薬学教育モデルコア・カリキュラム(平成25年度改訂版)に準拠した講義・実習・演習を行い、より体系的な薬学専門教育を実践する。また、令和6年度入学生から適用される薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の実施に向けて必要な教育内容の整備を行う。学生の研究へのモチベーションの向上及び卒業研究の質的向上を図るため、2年次のラボ訪問・研究体験を継続実施する。(薬科学科) ・ ルーブリックを用いた学修成果のパフォーマンス評価を継続実施する。(No.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の研究に対するモチベーションの向上を図るためのラボ訪問・研究体験を対面で実施した(12月～1月)。また、早期体験学習(企業訪問等)や薬学講座も対面により実施し、企業訪問では、訪問先を静岡県内の製薬企業5社に拡充し実施した。(薬科学科、薬学科) ・ 改正指定規則に対応した臨床検査技師教育に関する実習について、開催時期や臨地事前実習及び臨地実習の履修などを決定し、実施体制を整備した。(薬科学科、薬学科) ・ 令和6年度入学生から適用される薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の実施に向けて、カリキュラムの改訂、シラバスの改訂、及び3ポリシーの見直しを実施した。(薬科学科) ・ 令和3年度文部科学省の大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により制作したVRコンテンツを利用し、新たな医療環境に即応できる薬剤師養成のための教育を実施した。その制作の様子やオープンキャンパスでの利用の様子は、NHKなどのメディアでも紹介された。(薬科学科) ・ 令和5年度文部科学省の「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に関わる取組支援事業」に採択され、薬剤師偏在の課題を理解し、解決策を見出すための「地域医療アドバンスト実習」を開始した。川根本町で薬局や診療所、町役場などからサポートを受けて、実習を行った。(薬科学科5年生5名 教員9名(学内7名、学外2名) 12/18～12/22)(薬科学科) ・ 薬科学科4～6年生を対象として、大学病院薬剤師シンポジウムを開催し信州大学附属病院薬剤部長の特別講演と大学病院(信州大学、浜松医科大学、山梨大学)の若手薬剤師による講義及びシンポジウムを実施した。(薬科学科) ・ ルーブリックを用いた学修成果のパフォーマンス評価を継続実施した。また、ルーブリックの観点とディプロマ・ポリシーの関連性を明示するようルーブリック表を改定した。(薬科学科、薬科学科) 	S	A	<p>文部科学省の補助事業において、川根本町におけるへき地医療の課題解決への取組を開始し、地域の医療ニーズに合わせて卒後のキャリアパスにつなげていく薬学教育プログラムの構築・実践に着手した。また、令和4年度に制作したVRコンテンツを活用し、教育手法の高度化に取り組んだ。専門教育の充実させる取組は評価するが、計画を上回る成果を上げたとはまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><R5の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業訪問先の拡充や、新たに採択された文部科学省の補助事業で川根本町におけるへき地医療の課題解決への取り組みを開始し、人材育成と地域貢献を実践 <p><企業訪問の訪問先></p> <table border="1"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>4社</td> </tr> <tr> <td>令和2～4年度</td> <td>1社(Zoom)</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>5社</td> </tr> </table> <p>【文部科学省補助金の概要】</p> <p><令和5年度文部科学省の「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に関わる取組支援事業」></p> <p>申請件数:17大学、選定件数:4大学 選定4大学の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広島大学(島根大学) 2. 熊本大学(崇城大学) 3. 名古屋市立大学(岐阜薬科大学、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学) 4. 山陽小野田市立山口東京理科大学 <p>川根本町で薬局や診療所、町役場などからサポートを受けて、実習を行った。(薬科学科5年生5名 教員9名(学内7名、学外2名) 12/18～12/22)(薬科学科)</p> <p>⇒学生の実習を実施する機会の提供</p>	令和元年度	4社	令和2～4年度	1社(Zoom)	令和5年度	5社
令和元年度	4社											
令和2～4年度	1社(Zoom)											
令和5年度	5社											

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

資料5

評価を変更した項目（5項目）

No.	中期計画	R 5 年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
50	<p>・ 地域における中核的な学術研究推進拠点として研究成果を国内外に発信するとともに、シーズ集の発行や各種技術展への参加等を通じて、研究シーズを積極的に情報発信する。</p> <p>・ 教員著作図書の収集や機関リポジトリの整備等による本学の研究成果の蓄積と発信を進める。</p> <p>・ 静岡健康・長寿学術フォーラムを開催し、研究成果や学術情報の蓄積、地域社会への還元を行うとともに、国内外に積極的に情報発信する。</p> <p>・ 本学の研究成果や学術情報を公開するため、公開講座やUSフォーラムを開催する。</p> <p>〈数値目標〉 機関リポジトリ論文登録件数 200件以上（2019～2024年度累計） (No. 50)</p>	<p>・ 地域における中核的な学術研究推進拠点として、各種技術展への参加等を通じて研究成果を国内外に発信する。</p> <p>・ シーズ集を発行し企業や関係機関に配布することで、研究シーズを積極的に情報発信する。</p> <p>・ ふじのくに発イノベーション推進機構として、これまで構築した学術情報基盤などを通じ、研究シーズ探索のための情報を発信する。</p> <p>・ 教員著作図書の収集や機関リポジトリの整備・充実等により、本学の研究成果の蓄積と発信を進める。</p> <p>・ 本学が主体となる新たな形のフォーラムを開催し、時宜を得たテーマを設定し、県内大学と連携・協力の下、各大学の研究内容や本学教員の研究成果の発表、「高校生の研究活動」の支援など、広く県民に発信する。</p> <p>・ 公開講座やUSフォーラムにより、本学の研究成果や学術情報を公開する。 (No. 50)</p>	<p>・ 各種技術展への参加等を通じて研究成果を国内外に発信した結果、令和5年度末時点まで3シーズについて、企業5社が検討中である。 (参加実績) JST大学見本市(8/24-25)、第12回DSANJ(8/24-30) しんきんフェア2023(9/8)、BioJapan2023(10/13-15) 新技術説明会(10/24・3/7)、アグリビジネス創出フェア(11/20-22)、第13回DSANJ(1/25-30)</p> <p>・ 本学の他、東海地区23大学が参画するスタートアップエコシステム「Tongali(Tokai Network for Global Leading Innovation)プラットフォーム」がJST大学発新産業創出基金事業「スタートアップ・エコシステム共創プログラム拠点都市プラットフォーム共創支援」に採択され、学内の起業支援体制の構築に向けた5年間のプロジェクトを開始した。</p> <p>・ 食品栄養科学部の教員と学生が設立した「合同会社Digsense」を本学12柱目の大学発ベンチャーとして認定した。また、大学発ベンチャーを支援するため、学内にインキュベーションセンター「Kendai-Base」を開設し、研究成果の事業化を後押しするとともに意欲ある研究員や学生の確保につながるよう気運を醸成した。</p> <p>・ シーズ集冊子発行1,200部配布(企業、大学等配布)及びWebsiteでの発信により、国内外に発信した。</p> <p>・ 大学Websiteにて研究者実績成果JST「ResearchMap」のリンクを発信した。また、「機能性食品素材データベース」を公開し、受託研究に繋がった</p> <p>・ Website閲覧数868件 ・ システムディックレビュー4件 ・ ヒト介入試験2件 ・ 附属図書館において、教員著作図書の収集や機関リポジトリの整備等による本学の研究成果の蓄積と発信を進めた。</p> <p>機関リポジトリコンテンツ数2,379件(R4比+64件) (うち学位論文及び紀要論文1,065件(R4比+36件))</p> <p>・ 本学において電子媒体の学術誌『生涯健康科学ジャーナル(英語名: Journal of Lifelong Well-being Sciences)』を創刊した。附属図書館を事務局とし、創刊に向け、投稿要項や審査要領などの各種規定、業務フロー等を整備した。第1号を3月に創刊し、J-STAGEや機関リポジトリ、図書館ホームページへの掲載を行った。</p> <p>・ 令和3年度より開始した研究成果報告書のメタデータ登録、令和4年度より開始した「薬学部業績目録集」の掲載をさらに進めるとともに、新たに創刊した「生涯健康科学ジャーナル」を収録し、公開した。また、短期大学部では、短期大学部研究紀要の発展を目的に紀要細則、要領を見直し検討し、改正を行った。さらに短大部「業績一覧」「外部資金採択一覧」の作成WEB公開を行った。</p> <p>・ 静岡健康・長寿学術フォーラムについて、プログラムを見直し、本学が運営主体となつて、「生涯健康サイエンスフェス」の名称で実施した。3大学(静大、浜医大、社会健康医学大学院大学)と協力しながら、生涯健康に関する研究成果や学術情報の蓄積、地域社会への還元、情報発信を行った。令和5年度は「シン・時代を美しく安全に生きる」をテーマとし、人が生涯健康で暮らせるよう、いかに美しく、かつ安全に生きるための科学的な知恵について、記念講演やシンポジウムのほか、高校生による日頃の研究発表などを通して、静岡から生涯健康に係る多くの情報を発信した。</p> <p>開催日:プレセッション(11/17)、メインセッション(11/18) 参加者:445人(実人数)</p> <p>・ 令和5年度のUSフォーラムは、生涯健康サイエンスフェスのプレセッションとして開催し、ポスターと口頭で研究成果を発表した。(11/17開催、発表件数112件)</p> <p>・ 公開講座を、本学ウェブサイトへの掲載、ポスター掲示、リーフレットの配布、県や市町等の広報紙への掲載等を通じて、広く県民に周知した。県主催で公開講座(対面2学部、オンデマンド2学部)及び特別公開講座(対面)を実施するとともに、富士市との連携事業である富士市民大学前期ミニカレッジ(対面)、静岡市内6大学との連携事業である市民大学リレー講座(ハイブリッド)を実施した。</p> <p>○機関リポジトリ論文登録件数:32件(R5実績) 196件(R元~R5実績)</p>	<p>S</p> <p>(R4)</p> <p>(A)</p>	<p>A</p> <p>(R4)</p> <p>(A)</p>	<p>JST大学発新産業創出基金事業に採択され、学内の起業支援体制の構築に向けた5年間のプロジェクトを開始した。令和5年度は、大学12柱目となる大学発ベンチャーが誕生したほか、大学発ベンチャーを支援するため、学内にインキュベーションセンター「Kendai-base」を開設し意欲ある研究員や学生をハード、ソフトの両面から支援した。</p> <p>また、生命科学と人文社会科学の異分野にわたる学際的な研究成果を掲載した電子媒体の学術誌「生涯健康科学ジャーナル」の創刊を行うなど、研究成果の情報発信を強化した。積極的な情報発信の取組は評価するが、計画を上回る成果を上げたとは認められないため、左記の評価とする。</p> <p>< R 5 の主な取組 ></p> <p>【インキュベーションセンター「Kendai-Base」の入居率】 (令和5年度(開所(2月1日~)から3月31日まで)100%(令和5年度2室整備、2室入居済)</p> <p>【電子媒体の学術誌「生涯健康科学ジャーナル」を創刊後のアクセス等、反響(反応)等 J-STAGE(※)における本ジャーナルへのアクセス数 (集計対象期日:4月3日~4月30日) ※月末統計は翌月下旬に公開) 日本語画面からのアクセス:1,041件 英語画面からのアクセス:647件 計1,688件 J-STAGE(※):文部科学省所管の国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する科学技術情報発信・流通総合システム。電子ジャーナルを無料公開する。</p>

* 自己評価及び検証の下段カッコ書きは、昨年度評価結果

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

資料5

評価を変更した項目（5項目）

No.	中期計画	R 5年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																								
62	<p>・ 留学生の確保・育成に関する取組方針の整備を図る。 様々な受け入れ形態による留学生等の確保を進める。 留学生への教育の質を高めるため、留学生への満足度アンケートを実施する。 本学学生に留学情報を提供し、海外留学（交換留学・語学留学）への関心を高める。 外国人留学生、日本人学生、教員・研究者及び地域住民等多様な関係者の交流推進にも資する留学生の生活環境の整備を図る。 世界大学ランキングの活用等により世界に向けた情報発信を強化し、世界における本学のプレゼンスの向上を図る。 (数値目標) 留学生等受入人数140人以上 (令和6年度実績) 留学生への満足度アンケート(※)70%以上の維持(年度) ※ 留学生へのアンケート調査(5段階評価)において、本学への留学に対する満足度を上位2段階のいずれかに回答した留学生の全留学生に占める割合 海外派遣参加学生人数(交換留学生・語学留学生) 第2期中期計画期間の年度平均人数(34人)以上の維持(年度) (No.62)</p>	<p>・ 留学生の確保・育成に関する取組方針について検討するため、情報収集を継続する。 ・ 国や静岡県の国際交流事業への参加等を通じて、留学生確保に取り組む。 ・ 国際的なインターネット遠隔教育及び遠隔の学生との交流を実施推進する。 ・ 海外留学セミナーを開催し、在学中の留学計画作成を支援する。 ・ 留学生の満足度を測るアンケートを実施する。 ・ 交換留学等体験学生による報告会を継続するとともに、授業及びワークショップ等を通して、留学に関する情報提供及び意識醸成並びに交流の促進を図る。 ・ 語学留学説明会を実施し、留学促進を図る。 ・ 県立中央図書館跡地利用について、静岡県立大学国際交流会館(仮称)設置に向けた構想を検討する。 ・ 混住型国際学生寮を通じた本学学生と交換留学生等が相互理解を育み国際交流を図る場を提供する。 ・ 世界の動向を踏まえつつ、東南アジアにおける日本留学フェアや日中大学フェア&フォーラムに参加するなど本学に関する情報を世界に向けて発信するとともに、世界主要国の主要大学等を中心に、人脈形成及び関係構築を図る。 (数値目標) 留学生への満足度アンケート(※) 70%以上の維持 (年度) ※留学生へのアンケート調査(5段階評価)において、本学への留学に対する満足度を上位2段階のいずれかに回答した留学生の全留学生に占める割合 (No.62)</p>	<p>・ パルマ大学、ウェストミンスター大学等海外大学から教職員が来学した際に、留学生のニーズやカリキュラム等具体的な交流の可能性について意見交換し、本学の今後の方針の参考とした。 ・ 海外留学生の確保に向け、ふじのくに大学コンソーシアム主催の「静岡県大学進学フェア」に本学私費留学生と参加するとともに、4年ぶりにベトナムで開催された「日本留学フェア」に、資料配架により参加した。また、留学生向けオープンキャンパスをオンラインで開催し、国内外の日本語学校から参加を得た。(全参加総数420人) ・ 外国人留学生へきめ細かな学習支援、生活支援を行った結果、アンケート調査における留学生の本学の留学に対する満足度は目標値を上回った。(受入留学生:66人) ・ インターネットによる遠隔教育(COIL)を「大学の世界展開力強化事業」(COIL)が終了後も、大学院薬食生命科学総合学府、国際関係学部、経営情報学部及び看護学部で継続して実施し、学生交流を進めた。 ・ 交換留学経験者に留学フェア等に積極的に参加してもらい、海外留学に関心のある学生に対する意識醸成と交流を促進した。また、海外留学へのモチベーションとキャリアロードマップ作成のために、留学・交換留学・語学研修セミナー等をオンラインで実施するとともに、アーカイブ配信、最新FAQの掲載等を行い、学生がいつでも情報を得られる仕組みを構築した。令和5年度は通常セミナーに加え、交換留学や語学研修先のイメージ映像を学生主体で作成し、情報発信した。 ・ 国際交流室と言語コミュニケーション研究センターが協力し、カナダ ビクトリア大学留学説明会をオンライン実施した。カナダ・ビクトリア現地語学研修プログラムを9月及び3月に実施し、計24名が参加した。 ・ 静岡県立中央図書館の移転後の跡地への静岡県立大学国際交流会館(仮称)の構想を、「静岡県立大学国際交流会館(仮称)構想検討委員会」にて検討した。令和5年度は県外事例の視察と検討委員会を3回実施し、構想案(素案)をまとめた。 ・ 令和4年度から供用を開始した混住型国際学生寮「富学寮」について、初年度の実績を踏まえて運営を見直しながら、本学学生と交換留学生等が相互理解を育み国際交流を図る場を提供した。また、寮を軸に、その他に居住する交換留学生等とも交流が図れるようにオンライングループや定期ミーティングを重ね、より広い交流の場を提供することができた。 ・ 東南アジアにおける日本留学フェアへの参加やインドネシアの学校に向けたオンラインセミナーを実施するとともに、フェアにおいて本学紹介動画チラシやパンフレットを配架し、本学に関する情報を世界に向けて発信するとともに、世界主要国の主要大学等を中心に、人脈形成及び関係構築を図った。</p> <p>留学生への満足度アンケート 87.1%</p> <p>留学生等受入人数 66名 海外派遣参加学生人数(交換留学生・語学留学生) 61人</p>	<p>S (R4) (S)</p>	<p>A (R4) (A)</p>	<p>外国人留学生の確保に向けた情報発信体制の強化や留学促進に向けた取組の推進した結果、海外派遣参加学生人数は61人(交換留学18人、語学留学43人)となり数値目標を大きく上回った。しかしながら、留学生等の受入人数は減少傾向のため、左記の評価とする。留学生受入人数の数値目標達成に向け、対策を講じられたい。 また、COILを活用したモビリティ・プログラム(交換留学・日本人学生派遣)を展開していることから、今後は、遠隔教育による新たな留学プログラムに取り組むことを期待する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>数値目標</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンケート満足度</td> <td>70%</td> <td>82.2%</td> <td>97.1%</td> <td>88.5%</td> <td>77.2%</td> <td>87.1%</td> <td>達成</td> </tr> <tr> <td>留学生受入人数</td> <td>140人 (R6実績)</td> <td>99人</td> <td>91人</td> <td>91人</td> <td>79人</td> <td>66人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>海外派遣参加学生数</td> <td>34人</td> <td>29人</td> <td>0人</td> <td>8人</td> <td>23人</td> <td>61人</td> <td>達成</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>-</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>S</td> <td>A</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【中期計画 数値目標】 ・ 留学生等受入人数留学生等受入人数140人以上(令和6年度実績)；令和5年度なので判定外(66名) ・ 海外派遣参加学生人数(34人)；達成(61名)</p> <p>【年度計画 数値目標】 留学生満足度アンケート70%以上の維持；達成(87.1%)</p>		数値目標	R元	R2	R3	R4	R5	達成状況	アンケート満足度	70%	82.2%	97.1%	88.5%	77.2%	87.1%	達成	留学生受入人数	140人 (R6実績)	99人	91人	91人	79人	66人	-	海外派遣参加学生数	34人	29人	0人	8人	23人	61人	達成	評価	-	A	A	S	A	-	-
	数値目標	R元	R2	R3	R4	R5	達成状況																																							
アンケート満足度	70%	82.2%	97.1%	88.5%	77.2%	87.1%	達成																																							
留学生受入人数	140人 (R6実績)	99人	91人	91人	79人	66人	-																																							
海外派遣参加学生数	34人	29人	0人	8人	23人	61人	達成																																							
評価	-	A	A	S	A	-	-																																							

* 自己評価及び検証の下段カッコ書きは、昨年度評価結果

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

資料5

評価を変更した項目（5項目）

No.	中期計画	R 5 年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
74	<p>・ 科学研究費補助金、受託研究、共同研究等の外部資金の獲得に向け、制度の紹介や申請方法に関する学内説明会を実施するなど、全教員に対し、増加に向けた取組を促すとともに、奨学寄附金やおおぞら基金については、寄附者の理解を得るために大学の教育研究活動のPRを進めながら寄附金の確保を図る。</p> <p>また、施設使用料などの自己収入や民間企業等による学生支援のための奨学金についても、積極的に確保を進める。 (No.74)</p>	<p>・ 科学研究費補助金、受託研究、共同研究等の外部資金の確保に向け、制度の紹介や申請方法に関する学内説明会を実施するなど、全教員に対し、外部資金の獲得に向けた取組を促す。</p> <p>・ 奨学寄附金について、寄附者の理解を得るために大学の教育研究活動のPRを進めながら寄附金の確保を図る。</p> <p>・ おおぞら基金への寄附拡大のため、本学広報誌の配布時に案内をするなど寄附者への周知を図る。また、本学同窓会などへの寄附に関する広報を推進する。</p> <p>・ 他大学、類似施設の動向を踏まえて施設利用料を値上げ改定する。 (No.74)</p>	<p>・ 外部資金公募情報を月2回配信し、研究費公募を支援した。</p> <p>・ 外部資金獲得の体制強化のため、令和6年度からURA (University Research Administrator) を配置することとし、採用に向けた準備を行った。</p> <p>・ 若手研究者 (45歳以下) のモチベーション向上のため、欄テクノスルガ・ラボとの共同研究テーマ公募の新たな組織対組織による産学連携の取組を行った。 (3件採択、R6年度研究開始)</p> <p>・ ㈱伊藤園からの奨学寄附金を原資とした研究活動を趣旨とする寄附講座開設の広報活動を行い、奨学寄附金の活用例を周知した。</p> <p>・ 奨学寄附金の贈与行為としての税控除メリット及び注意点を整理した資料を作成し、HP上で寄附申込書と並列して公開することで、寄附者の理解を得やすくした。</p> <p>・ おおぞら基金への寄附拡大のため、本学広報誌の配布時に案内をするなど、寄附者への周知を図った。また、同窓会においておおぞら基金のチラシを配布した。</p> <p>・ 近隣施設を調査・分析し、講義室等貸付料を改定するとともに、適正な対価を徴収するため、光熱費高騰により実態と乖離している空調利用料の値上げや貸出業務に係る事務費用を徴収する事務手数料を新設し、歳入確保に努めた。</p>	S (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>講義室等貸付料を適正な対価で徴収するため、光熱費高騰により実態と乖離している空調利用料の値上げや貸出業務に係る事務費用を徴収する事務手数料を新たに追加し、施設利用料の改定を行った。しかしながら、実際の運用は令和6年度からであり、現時点で効果を判断できないため、計画を上回る成果を上げたとは認められないとし、左記の評価とする。</p> <p>< R5の主な取組 > ○状況 ・ 講義室等貸付料を改定→令和6年度から施行 ※令和6年6月末時点で値上げによる貸出件数等の影響はなし</p>
82	<p>・ ハラスメントの根絶を目指し、相談窓口体制の充実や重層的な研修会等の実施により、防止・救済対策の強化を図る。</p>	<p>・ 学外相談員や各部局に配置する教職員の相談員等によるハラスメントに関する相談窓口・体制を引き続き確保するとともに、学生に対するリーフレットの配布やハラスメント相談窓口の周知、ニュースレターの発行等により、ハラスメントの防止・救済対策の充実を図る。</p> <p>・ 全教職員にハラスメント根絶のための意識を徹底させるため、引き続き、教職員採用時にハラスメント研修を実施するとともに、教職員を対象に実施する部局ごとのハラスメント研修会の広報を強化し、欠席者に対しては当日の研修内容の録画を視聴させるなど受講率の向上に努める。</p> <p>・ より相談しやすい体制の確保、専門的知見の導入の観点から、ハラスメント相談や発生事案の検証における外部資源の活用の方策について引き続き検討する。 (No.82)</p>	<p>・ 学外相談員や各部局に配置する教職員の相談員等によるハラスメント相談を実施した。ハラスメント相談日を毎月、全学生・全教職員へ周知するほか、リーフレット配布、ニュースレター発行等によるハラスメント相談体制の広報に努めた。</p> <p>・ 令和5年度におけるハラスメントの申立件数は1件、ハラスメントの事実が一部認められた件数は1件であり、この1件についてはハラスメントに関する注意喚起を行った。</p> <p>・ 教職員採用時のハラスメント研修を実施した。また、各部局で実施するハラスメント研修会は、ZOOMによるオンライン講義により実施し、欠席者に対しては研修内容の録画データを全教職員が視聴することを求め、意識啓発・徹底に努めた。短期大学部では1月18日にハラスメント防止研修会を開催した。欠席者には録画を視聴するハラスメント防止研修会を開催し、受講率100%を達成した。</p> <p>・ ハラスメント相談や発生事案の検証における外部資源の活用方策として、学外者のハラスメント相談員委嘱（ハラスメント学外相談員の設置）、全学ハラスメント防止・対策委員会における外部弁護士委員委嘱を行った。外部資源活用の方策について、他大学の活用状況の情報収集等を行いながら引き続き検討した。</p>	A (R4) (A)	B (R4) (A)	<p>相談員等によるハラスメント相談を実施したほか、ハラスメント防止研修会を実施し受講率100%を達成するなど、ハラスメントの防止・救済に取り組んでいるが、懲戒処分に至るパワー・ハラスメント事案が発生しており、全学を挙げてハラスメントの防止・救済を徹底されたい。</p> <p>< R5 > ・ 注意喚起 1件 ・ 懲戒処分 1件</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

評価に当たっての意見がある項目（5項目）

資料5

No.	中期計画	R 5年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																											
14	<p>・ 学生の薬剤師国家試験の合格に向けた学習を積極的に支援する。 〈数値目標〉 薬剤師国家試験 新卒者の合格率90%の維持（薬学部薬学科） (No.14)</p>	<p>・ 薬剤師国家試験において、第108回薬剤師国家試験（令和5年2月実施）の内容を精査し、教育内容の検証を行う。 ・ 模擬試験での成績不良者に対して、基礎学力を向上させるための補講を実施し、学生の学力レベルの底上げを図る。（薬学部薬学科） 〈数値目標〉 薬剤師国家試験 新卒者の合格率 90%の維持（薬学部薬学科） (No.14)</p>	<p>・ 第108回薬剤師国家試験の内容を精査することで教育内容を検証し、成績不良者の学力向上を目的とする「底上げ補講」を夏期・秋期の2期（各17回ずつ）実施した。 薬剤師国家試験（第108回） 新卒者の合格率89.5%</p>	A (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>薬剤師国家試験、管理栄養士国家試験及び看護師国家試験において、数値目標を達成できなかった。今後、合格率向上に向けた学習支援の一層の充実に努められたい。</p> <p><薬剤師国家試験合格状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">静岡県立大学</td> <td>合格者数</td> <td>79</td> <td>81</td> <td>74</td> <td>76</td> <td>78</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>82</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>98.8%</td> <td>100%</td> <td>93.7%</td> <td>95.0%</td> <td>95.1%</td> <td>89.5%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>83.5%</td> <td>84.7%</td> <td>85.6%</td> <td>85.2%</td> <td>84.9%</td> <td>84.4%</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>SS</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5	静岡県立大学	合格者数	79	81	74	76	78	77	受験者数	80	81	80	80	82	86	合格率	98.8%	100%	93.7%	95.0%	95.1%	89.5%	全国平均	83.5%	84.7%	85.6%	85.2%	84.9%	84.4%	評価	A	SS	A	A	A	
区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																											
静岡県立大学	合格者数	79	81	74	76	78	77																																										
	受験者数	80	81	80	80	82	86																																										
合格率	98.8%	100%	93.7%	95.0%	95.1%	89.5%																																											
全国平均	83.5%	84.7%	85.6%	85.2%	84.9%	84.4%																																											
評価	A	SS	A	A	A																																												
15	<p>・ 学生の管理栄養士国家試験の合格に向けた学習を積極的に支援する。 〈数値目標〉 管理栄養士国家試験 新卒者の合格率100%の維持（食品栄養学部栄養生命科学科） (No.15)</p>	<p>・ 管理栄養士国家試験において、関連科目の講義の工夫をするとともに、模擬試験の実施など国家試験対策の一層の充実を図る。模擬試験の成績が低い学生に対して個別指導を強化する。 ・ 管理栄養士国家試験対策のみではなく、卒業後も自ら学び続けていける力を養成できるよう、自主学习の視点を加味した教育を実施する。 〈数値目標〉 管理栄養士国家試験 新卒者の合格率100%の維持（食品栄養学部栄養生命科学科） (No.15)</p>	<p>・ 管理栄養士国家試験において、関連科目の講義の工夫をするとともに、模擬試験の実施など国家試験対策の一層の充実を図った。また、模擬試験の成績が低い学生に対して苦手科目の克服に向けた個別指導を強化した。 ・ 管理栄養士国家試験対策のみではなく、卒業後も自ら学び続けていける力を養成できるよう、グループワークや自己課題提出等、自主学习の視点を加味した教育を実施した。 管理栄養士国家試験 新卒者の合格率 96.4%</p>	A (R4) (A)	A (R4) (A)	<p><管理栄養士国家試験合格状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">静岡県立大学</td> <td>合格者数</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>22</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>23</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>95.7%</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>95.5%</td> <td>92.4%</td> <td>91.3%</td> <td>92.9%</td> <td>87.2%</td> <td>80.4%</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>—</td> <td>A</td> <td>S</td> <td>S</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>次のページへ続く</p>	区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5	静岡県立大学	合格者数	28	26	24	25	22	27	受験者数	28	26	24	25	23	28	合格率	100%	100%	100%	100%	95.7%	96.4%	全国平均	95.5%	92.4%	91.3%	92.9%	87.2%	80.4%	評価	—	A	S	S	A	
区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																											
静岡県立大学	合格者数	28	26	24	25	22	27																																										
	受験者数	28	26	24	25	23	28																																										
合格率	100%	100%	100%	100%	95.7%	96.4%																																											
全国平均	95.5%	92.4%	91.3%	92.9%	87.2%	80.4%																																											
評価	—	A	S	S	A																																												

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

評価に当たっての意見がある項目（5項目）

資料5

No.	中期計画	R 5 年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																													
16	<p>・ 学生の看護師、保健師、助産師国家試験の合格に向けた学習を積極的に支援する。 (数値目標) 看護師国家試験 新卒者の合格率100%の維持 保健師国家試験 新卒者の合格率全国平均以上の維持 (看護学部看護学科) 助産師国家試験 新卒者の合格率100%の維持 (看護学研究科) (No.16)</p>	<p>・ 看護師国家試験、保健師国家試験及び助産師国家試験において、定期的な模擬試験の受験支援、受験対策セミナーの実施、模擬試験で明らかになった不得意科目の補講の実施、成績が低迷する学生へのアドバイザー教員による個別学習支援の実施など国家試験合格に向けた支援を強化する。 (数値目標) 看護師国家試験 新卒者の合格率100%の維持 保健師国家試験 新卒者の合格率全国平均以上の維持 (看護学部看護学科) 助産師国家試験 新卒者の合格率100%の維持 (看護学研究科) (No.16)</p>	<p>・ 看護師模試を2回(8/25、9/21)実施し、結果を教員間で共有し、成績が低迷している学生にはアドバイザー教員が個別に支援を行った。また、国家試験に向けて学生が国家試験勉強を行える場として10月からスタディ・ホールの開放し、学習支援体制を強化した。</p> <p>看護師国家試験 新卒者の合格率 99.0% 保健師国家試験 新卒者の合格率 100% 助産師国家試験 新卒者の合格率 100%</p>	A (R4) (A)	A (R4) (B)	<p><看護師・保健師・助産師国家試験合格状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">国家試験</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">看護師</td> <td>合格率</td> <td>100.0%</td> <td>97.5%</td> <td>98.4%</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>95.4%</td> <td>96.5%</td> <td>95.5%</td> <td>93.2%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保健師</td> <td>合格率</td> <td>98.9%</td> <td>96.9%</td> <td>94.7%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>97.4%</td> <td>93.0%</td> <td>96.8%</td> <td>97.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">助産師</td> <td>合格率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>83.3%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>99.7%</td> <td>99.7%</td> <td>95.9%</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">評価</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	国家試験		R2	R3	R4	R5	看護師	合格率	100.0%	97.5%	98.4%	99.0%	全国平均	95.4%	96.5%	95.5%	93.2%	保健師	合格率	98.9%	96.9%	94.7%	100.0%	全国平均	97.4%	93.0%	96.8%	97.7%	助産師	合格率	100.0%	100.0%	83.3%	100.0%	全国平均	99.7%	99.7%	95.9%	99.3%	評価		A	A	B	
国家試験		R2	R3	R4	R5																																														
看護師	合格率	100.0%	97.5%	98.4%	99.0%																																														
	全国平均	95.4%	96.5%	95.5%	93.2%																																														
保健師	合格率	98.9%	96.9%	94.7%	100.0%																																														
	全国平均	97.4%	93.0%	96.8%	97.7%																																														
助産師	合格率	100.0%	100.0%	83.3%	100.0%																																														
	全国平均	99.7%	99.7%	95.9%	99.3%																																														
評価		A	A	B																																															

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

評価に当たっての意見がある項目（5項目）

資料5

No.	中期計画	R 5 年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																								
27	<p>・ 社会人、留学生を含めた志願者の状況や入試に関する外部要因の情報に基づく入学者確保対策や学内教育体制の検討、見直しに取り組み、各学科、各専攻の定員充足を図る。</p> <p>大学院については、入学定員の充足を目指した取組を推進する。</p> <p>(数値目標) 大学院入学定員充足率(大学院全体) 修士/博士前期課程 100% 博士/博士後期課程 100% (No.27)</p>	<p>・ オープンキャンパスや大学院説明会の状況、各種入試志願者数、受験産業の情報の推移を分析し、志願者数増加のための改善を図る。(薬学部、薬学専攻、薬科学専攻、薬食生命科学専攻)</p> <p>・ 他大学及び社会人、海外からの志願者の増加及び社会人大学院生・外国人留学生を確保するために、大学院説明会を開催するほか、積極的な広報活動を展開する。(薬学専攻、薬科学専攻、薬食生命科学専攻)</p> <p>・ オープンキャンパス、高大連携授業をはじめとして各種広報活動を積極的に進める。(食品栄養科学部)</p> <p>・ 内部からの大学院進学を促すとともに、社会人や海外からの大学院生を確保するための効果的な大学院説明会の在り方を検討する。また、海外からの留学志願者にPRするため、大学院HPの英語版を充実させる。(食品栄養科学専攻、環境科学専攻)</p> <p>・ 対面による実施等、状況に応じた効果的なオープンキャンパスの開催方法を検討する。学部の長期履修制度を導入する。(国際関係学部)</p> <p>・ 伊豆地域を中心に高校での出前授業に引き続き積極的に対応するほか、観光教育を開始する商業高校の教員をサポートし、連携を深めていく。(経営情報学部)</p> <p>・ オープンキャンパスの実施、募集要項の送付、ホームページへの入試情報の掲載などにより広報活動を行い、入学者確保に取り組む。博士前期課程受験希望者が博士後期課程までの学修プランを立案できるよう、博士前期課程・博士後期課程の募集要項を合冊に変更する。(看護学部、看護学研究科)</p> <p>・ 入学定員数の在り方について、引き続き検討を行う。(食品栄養科学専攻、環境科学専攻)</p> <p>・ 志願者の増加に向けて、対面式でのオープンキャンパスの実施や模擬講義の動画公開などについて、より効果的な方法を検討し、実施する。また、各選抜での志願者動向を分析した上で、高校訪問等を実施し、定員充足を図る。(短期大学部)</p> <p>(数値目標) 大学院入学定員充足率(大学院全体) 修士/博士前期課程 100% 博士/博士後期課程 100% (No.27)</p>	<p>・ 薬学部では、オープンキャンパスにおいて、学部紹介動画の視聴、模擬講義(12本)、模擬薬局見学、モバイルファーマシーの見学、VRを利用した薬剤師模擬体験、個別相談を提供し、薬学部の魅力をアピールした。</p> <p>オープンキャンパス 8/8開催 午前、午後の二部制で対面により実施 参加者: 908名</p> <p>・ 薬学専攻、薬科学専攻、薬食生命科学専攻では、動画配信による大学院説明会を実施した。また、英語版ホームページのコンテンツの充実、および英語版募集要項の改善など、海外からの入学増加に向けた取組みを行った。</p> <p>・ 食品栄養科学部では、オープンキャンパス、高大連携授業をはじめとして各種広報活動を積極的に実施した。</p> <p>オープンキャンパス 8/9開催 対面: 4回/日、参加者: 466名(学生286名、保護者180名) オンライン: グループ面談および個別面談、参加者: 17名</p> <p>・ 食品栄養科学専攻、環境科学専攻では、内部からの大学院進学を積極的に促すとともに、社会人や海外からの大学院生を確保するために、学内外で効果的な大学院説明会を実施した。また、海外からの留学志願者にPRするため、大学院HPの英語版を充実させた。</p> <p>・ 国際関係学部では、オープンキャンパスを対面で開催した。また、学部の長期履修制度の導入に向けて、他大学の先行事例を検討し、本学部での導入に向けて教員間での意見交換を行い、準備を進めた。</p> <p>・ 国際関係学研究科では入学定員の充足に資することを期して、オープンキャンパスを2回実施した。</p> <p>留学生向け説明会: 6/19 参加者12名 内部学部生向けの説明会: 7/10 参加者20名</p> <p>・ 経営情報学部では、伊東高校・稲取・下田高校へ各4回ずつの出前授業・ワークショップを実施した。また、観光教育に取り組む商業高校教員のサポートを行った。</p> <p>・ 経営情報イノベーション研究科では、大学院志願者増に向け、個別相談会を2回実施した。</p> <p>参加者: 6月 博士前期課程受験希望者5名、11月 博士前期課程受験者3名</p> <p>・ 看護学部オープンキャンパス 8/8開催 参加者484名</p> <p>・ 看護学部研究科では、オープンキャンパスを対面とオンライン双方向形式を組み合わせたハイブリット形式で2回開催した。例年、社会人の参加者が多いため、時間帯は夜間とした。第2回は一部動画配信サービスを使用して期間限定で修了生の話を視聴できるようにした。参加者 41名(2回合計)。また、広報活動として、本学サイト・大学院進学情報サイトへの掲載、関連機関への郵送案内、県民だより、ラジオ等での限り幅広くメディアを活用した。さらに、助産学課程では、本学看護学部生を対象とした「助産について語る会(MJ cafe)」(3回/年)、「助産学課程説明会」を開催し、毎回10名程度の参加者があり、助産師や大学院進学に対する関心を高めた。</p> <p>・ 食品栄養科学専攻及び環境科学専攻における入学定員数の在り方について、継続的に検討を行った。</p> <p>・ 短期大学部でオープンキャンパス、動画公開、高校訪問等を実施した。</p> <p>オープンキャンパス 7/29開催 対面により実施 参加者342名 動画紹介 教員による模擬講義動画(11月末まで公開) 5本 学科照会動画(3月末まで公開) 10本</p> <p>大学院入学定員充足率(大学院全体) 修士/博士前期課程 88.3% 博士/博士後期課程 54.5%</p>	<p>B</p> <p>(R4)</p> <p>(B)</p>	<p>B</p> <p>(R4)</p> <p>(B)</p>	<p>大学院の博士/博士後期課程における大幅な定員未充足については、教学面だけでなく経営面からも今後の対応策を検討し、早急に大学院全体の将来構想を議論されたい。</p> <p>入学定員充足状況(大学院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">博士/博士前期</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>入学者数</th> <th>入学定員</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 1</td> <td>86</td> <td>111</td> <td>77.5%</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>122</td> <td>111</td> <td>109.9%</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>109</td> <td>111</td> <td>98.2%</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>112</td> <td>111</td> <td>109.9%</td> </tr> <tr> <td>R 5</td> <td>98</td> <td>111</td> <td>88.3%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">博士/博士後期</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>入学者数</th> <th>入学定員</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 1</td> <td>35</td> <td>44</td> <td>79.5%</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>25</td> <td>44</td> <td>56.8%</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>25</td> <td>44</td> <td>56.8%</td> </tr> <tr> <td>R 5</td> <td>24</td> <td>44</td> <td>54.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 大学院博士後期課程では、令和3年度から悪化し、定員充足率が60%を割り込んでいる</p> <p>・ 大学院において、全14専攻のうち10専攻が定員割れとなる</p>	博士/博士前期				年度	入学者数	入学定員	充足率	R 1	86	111	77.5%	R 2	122	111	109.9%	R 3	109	111	98.2%	R 4	112	111	109.9%	R 5	98	111	88.3%	博士/博士後期				年度	入学者数	入学定員	充足率	R 1	35	44	79.5%	R 2	42	44	95.5%	R 3	25	44	56.8%	R 4	25	44	56.8%	R 5	24	44	54.5%
博士/博士前期																																																														
年度	入学者数	入学定員	充足率																																																											
R 1	86	111	77.5%																																																											
R 2	122	111	109.9%																																																											
R 3	109	111	98.2%																																																											
R 4	112	111	109.9%																																																											
R 5	98	111	88.3%																																																											
博士/博士後期																																																														
年度	入学者数	入学定員	充足率																																																											
R 1	35	44	79.5%																																																											
R 2	42	44	95.5%																																																											
R 3	25	44	56.8%																																																											
R 4	25	44	56.8%																																																											
R 5	24	44	54.5%																																																											

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

評価に当たっての意見がある項目（5項目）

資料5

No.	中期計画	R 5 年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
78	<p>自己点検・評価システムの改善を行うとともに、定期的に実施する自己点検・評価や大学認証評価等を踏まえながら、教育研究及び業務運営の改善と充実を図る。 (No.78)</p>	<p>大学質保証委員会、短期大学部質保証委員会を中心に認証評価を円滑に受審するとともに、内部質保証システムの改善・向上に係る取組を継続的に実施する。 ・中期・年度計画推進委員会を中心に、令和4年度業務実績の点検・評価及び第3期中期目標期間の見込評価を実施し、静岡県公立大学法人評価委員会による評価結果を踏まえて、業務改善に取り組む。 (No.78)</p>	<p>大学、短期大学部において、全学的観点から行った自己点検・評価を基に、公益財団法人大学基準協会の大学認証評価、短期大学認証評価を受審した。質問への回答、実地調査（大学R5.9.18-19、短期大学部R5.9.22-23）、評価結果案への意見提出等に対応し、同協会の定める大学基準、短期大学基準に適合していると認定するとの評価結果を得た（R6.3.28、認定期間は令和6年4月1日から令和13年3月31日まで）。 ・内部質保証システムに係る取組として、カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証を行い、HPに公表するとともに、課題について質保証委員会で進捗管理する体制を整えた。（短期大学部） ・中期・年度計画推進委員会を中心に、令和4年度計画の業務実績及び第3期中期目標期間業務実績見込について、自己点検・評価を行い、『業務実績報告書』を作成し、法人内の審議を経て、その結果を大学ホームページで公表した。あわせて「静岡県公立大学法人評価委員会」に提出し、それぞれ「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」、「中期目標の達成に向けた進捗状況が良好である」と評価された。令和5年度計画の進行管理、令和6年度計画の策定並びに第4期中期計画に向けた課題の整理においては、法人評価結果を踏まえて行った。</p>	A (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>外部認証評価機関による認証評価の受審の結果、「大学基準及び短期大学基準に適合している」旨の認定を受けた。改善を要するとして提言を受けた「改善課題」「是正勧告」について、速やかに対応を行い、教育研究の質の向上を図られたい。</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和5事業年度評価）

評価に当たって、継続して報告する項目（1項目）

資料5

No.	中期計画	R 5年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																																																																																																
51	<p>・ 研究水準の向上を図るため、外部評価における研究（研究環境）に関する提言、学内での研究成果発表等を通じた相互評価、教員活動評価制度等を活用した研究活動の検証、改善を行う。</p> <p>外部資金（科学研究費補助金、受託研究費・共同研究費等（おおぞら基金を除く。））は、過去の年度実績平均を超える金額及び件数の獲得を目指す。</p> <p>〈数値目標〉 外部資金 ・獲得金額 第1期及び第2期計画期間の年度平均を超える金額の維持 ・獲得件数 第1期及び第2期計画期間の年度平均を超える件数の維持 (No. 51)</p>	<p>・ USフォーラムにおける発表を通じて研究水準の向上を図る。</p> <p>・ 教員から教員活動実績報告書の提出を受け、前年度の教育研究活動の状況を確認するとともに、教員の士気向上を図るため、教員活動評価学長表彰を行う。</p> <p>・ 科学研究費助成金を獲得するための申請方法等アドバイス支援を実施する。</p> <p>・ 地域産業の発展や新産業創出に貢献するため、ふじのくに発イノベーション推進機構を中核とし、静岡県や地域産業と連携しながら、学際的な研究事業に取り組む。</p> <p>〈数値目標〉 外部資金 ・獲得金額 第1期及び第2期計画期間の年度平均（885,433千円）を超える金額の維持 ・獲得件数 第1期及び第2期計画期間の年度平均（353件）を超える件数の維持 ※（ ）部分：事務局で加筆 (No. 51)</p>	<p>・ 令和5年度のUSフォーラムは、生涯健康サイエンスフェスのプレセッションとして開催し、ポスターと口頭で研究成果を発表した。</p> <p>11/17開催、発表件数112件</p> <p>・ 教員活動実績報告書により、教員の前年度の教育研究活動の状況を確認するとともに、教員活動評価における業績優秀者14人に対して、学長表彰を行った。</p> <p>・ 教員の研究時間確保のため、国競争的資金制度において、研究代表者等本人の希望により、その者が担っている業務のうち研究以外の業務（講義等の教育活動等やそれに付随する事務等。）の代行に係る経費の支出を可能とするバイアウト制度を導入した。これにより、研究プロジェクトに専念できる時間の拡充が可能となった。</p> <p>・ 外部資金獲得に向け、外部資金公募情報を月2回配信するとともに、科学研究費助成金申請書の書き方アドバイス支援を実施した。</p> <p>・ 静岡県や地域産業との連携を深め、学際的な研究事業に取り組み、フーズ・ヘルスケアプロジェクト推進事業を推進した。</p> <p>①データヘルス・リビングラボ静岡の運営 ・ LINE公式アカウント「リビングラボ友の会」を開設しコミュニティを形成 登録者297名 ・ 商品化モニター事業</p> <p>②機能性表示データベースの運用 ・ R5年度Website閲覧数868件 ・ システマティックレビュー契約件数4件 ・ ヒト臨床試験2件</p> <p>③健康イノベーション教育プログラムの実施 ・ 食・ヘルスケア産業に関心のある社会人向けプログラムの受講者延100人</p> <p>・ 外部資金獲得の体制強化のため、令和6年度からURA (University Research Administrator) を配置することとし、採用に向けた準備を行った。</p> <p>外部資金 ・ 獲得金額 932,667千円 ・ 獲得件数 401件</p>	S	S	<p>【外部資金の状況】</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">科学研究費助成事業</td> <td>件数</td> <td>159</td> <td>171</td> <td>164</td> <td>174</td> <td>167</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>344,422</td> <td>348,330</td> <td>331,290</td> <td>385,710</td> <td>415,675</td> <td>381,550</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">受託・共同研究費</td> <td>件数</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>141</td> <td>139</td> <td>185</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>373,869</td> <td>438,094</td> <td>474,686</td> <td>543,969</td> <td>350,409</td> <td>402,759</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">奨学寄附金</td> <td>件数</td> <td>85</td> <td>102</td> <td>86</td> <td>79</td> <td>86</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>157,841</td> <td>119,190</td> <td>164,535</td> <td>114,647</td> <td>157,854</td> <td>127,829</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地(知)の拠点整備事業</td> <td>件数</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>14,800</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他の補助金</td> <td>件数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>852</td> <td>40,984</td> <td>52,758</td> <td>55,029</td> <td>11,800</td> <td>20,529</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小計</td> <td>件数</td> <td>372</td> <td>410</td> <td>394</td> <td>394</td> <td>439</td> <td>401</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>891,784</td> <td>946,598</td> <td>1,023,269</td> <td>1,099,355</td> <td>935,738</td> <td>932,667</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">おおぞら基金</td> <td>件数</td> <td>82</td> <td>80</td> <td>228</td> <td>111</td> <td>106</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>158,535</td> <td>4,008</td> <td>9,449</td> <td>6,342</td> <td>6,342</td> <td>10,851</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>件数</td> <td>454</td> <td>490</td> <td>622</td> <td>505</td> <td>545</td> <td>477</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>1,050,319</td> <td>950,606</td> <td>1,031,929</td> <td>1,105,571</td> <td>942,080</td> <td>943,518</td> </tr> </tbody> </table> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得金額 第1期及び第2期計画期間の年度平均（885,433千円）を超える金額の維持：達成（932,667千円） 外部資金獲得件数 第1期及び第2期計画期間の年度平均（353件）を超える件数の維持：達成（401件）※110% 	区分		H30	R1	R2	R3	R4	R5	科学研究費助成事業	件数	159	171	164	174	167	162	金額	344,422	348,330	331,290	385,710	415,675	381,550	受託・共同研究費	件数	127	135	141	139	185	142	金額	373,869	438,094	474,686	543,969	350,409	402,759	奨学寄附金	件数	85	102	86	79	86	88	金額	157,841	119,190	164,535	114,647	157,854	127,829	地(知)の拠点整備事業	件数	1	—	—	—	—	—	金額	14,800	—	—	—	—	—	その他の補助金	件数	1	2	3	2	1	9	金額	852	40,984	52,758	55,029	11,800	20,529	小計	件数	372	410	394	394	439	401	金額	891,784	946,598	1,023,269	1,099,355	935,738	932,667	おおぞら基金	件数	82	80	228	111	106	76	金額	158,535	4,008	9,449	6,342	6,342	10,851	合計	件数	454	490	622	505	545	477	金額	1,050,319	950,606	1,031,929	1,105,571	942,080	943,518
区分		H30	R1	R2	R3	R4	R5																																																																																																																															
科学研究費助成事業	件数	159	171	164	174	167	162																																																																																																																															
	金額	344,422	348,330	331,290	385,710	415,675	381,550																																																																																																																															
受託・共同研究費	件数	127	135	141	139	185	142																																																																																																																															
	金額	373,869	438,094	474,686	543,969	350,409	402,759																																																																																																																															
奨学寄附金	件数	85	102	86	79	86	88																																																																																																																															
	金額	157,841	119,190	164,535	114,647	157,854	127,829																																																																																																																															
地(知)の拠点整備事業	件数	1	—	—	—	—	—																																																																																																																															
	金額	14,800	—	—	—	—	—																																																																																																																															
その他の補助金	件数	1	2	3	2	1	9																																																																																																																															
	金額	852	40,984	52,758	55,029	11,800	20,529																																																																																																																															
小計	件数	372	410	394	394	439	401																																																																																																																															
	金額	891,784	946,598	1,023,269	1,099,355	935,738	932,667																																																																																																																															
おおぞら基金	件数	82	80	228	111	106	76																																																																																																																															
	金額	158,535	4,008	9,449	6,342	6,342	10,851																																																																																																																															
合計	件数	454	490	622	505	545	477																																																																																																																															
	金額	1,050,319	950,606	1,031,929	1,105,571	942,080	943,518																																																																																																																															